



広徳中学校だより

第8号
学力特集号

令和元年11月22日

学校教育目標 「何事にも全力で取り組む、思いやりのある笑顔あふれる生徒の育成」

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

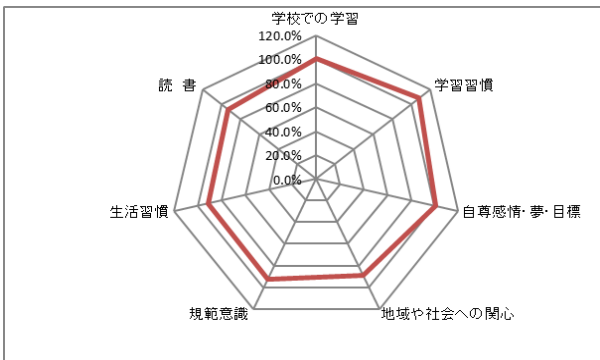
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	文章中の表現や情報の整理など文章内容の理解力に課題がある。しかし、自分の考えを求める問題や適切な言葉で文章を表現する問題の正答率は全国平均を上回る、あるいは全国平均に近い数値になるなど力が身に付いている。	下回っている。
数学	数の事柄が成り立つ理由を説明するなど数の性質をとらえる力が身に付いている。しかし、確率を求めたり、事象を数学的に解釈したりする問題の正答率は、全国平均を下回るなど論理的な思考力に課題が見られる。	下回っている。
英語	英文に関する情報を読み取ったり、書いたりする問題に対する理解力が身に付いている。しかし、説明文の大切な部分を理解し、文の中で適切な接続詞を使うなど心情の理解や一部の語句の技能的な理解に課題がある。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・学習習慣については、全国平均よりも自ら計画的に勉強している割合が大きく上回っており、家庭学習の定着という点で成果が出ている。
- ・規範意識においては、全国平均を上回っており、ルールの大切さや思いやりの大切さなどに対する理解力が身に付いてきている。
- ・生活習慣では、朝食を食べる習慣が全国平均を下回っており、朝食の大切さを理解し、その習慣を身に付けさせることが課題である。
- ・自尊感情では、自分にはよいところがあると感じている生徒の割合が全国平均を大きく下回っており、自分のよさに気付かせることが課題である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎授業改善

- ・年間2回の互見授業の機会を生かし、「めあて」や「まとめ」の整合性や「振り返り活動」の大切さを理解し、話し合い活動やアクティブラーニングを含めた授業改善に対する意識を高める。

◎豊かな心の育成

- ・ローテーション道徳に引き続き取り組み、道徳の時間で学んだことを実践につなげられるようにする。特に、自尊感情を高める手立てとして学級の実践や人間関係作りを通して「気づき」の体験を重視した学びの機会を数多く体験させると共に、自らの価値を発見し、何事にも自信をもって取り組めるようにする。

◎補充学習の充実

- ・各教科等から出される課題に十分取り組めない生徒に対して放課後の時間を使って学習をさせ、家庭学習のやり方や工夫の仕方等の指導や助言を行う。また、定期テスト前には質問教室を実施し、苦手教科の克服に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎家庭学習の定着

- ・自学ノートの活用の仕方について、その活用方法を紹介し、時間をかけて取り組むだけでなく、効果的な学習方法を身に付けさせ、自ら繰り返し学習しようとする姿勢を身に付けさせる。
- ・自学ノートでは、継続して課題の内容や方法を指導し、学級担任を中心に学年で確実に点検する。未提出者は放課後の時間を有効活用し提出させるなど粘り強く継続して取り組んでいく。
- ・定期考査2週間前からの「学習計画表」を学級活動の時間に担任指導の下に作成させ、保護者確認印を担任が点検し、目標を意識させながら計画的に取り組ませる。

- ・家庭学習の実態について、教育相談等でその取り組み方について確認・分析し、必要な指導や助言を行う。

- ・家庭学習時間コンクールなど生徒会活動の取組を通して、家庭学習に対する意識を高める。

◎自己肯定感の向上

- ・あらゆる教育活動を通して自らのよさが夢や目標の実現につながることに気付かせ、自ら積極的に努力していこうとする姿勢を身に付けさせる。